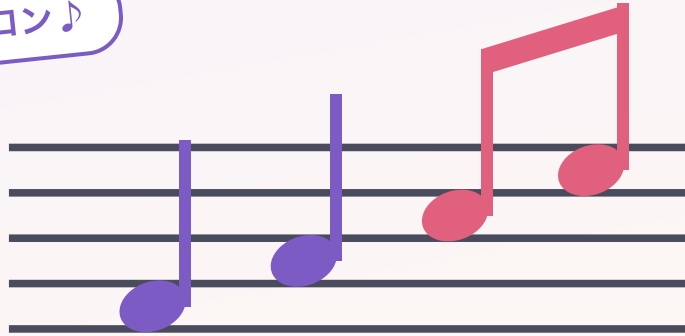


ポロロン ♪



箏の音色、すてき！

箏

13本の弦が生み出す、澄んだ響き



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょ

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まりま

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

箏を知る	3～7
演奏の準備	8～11
弾き方を深める	12～19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

箏ってなに？

箏は、日本を代表する弦楽器です。

箏（こと）は、日本を代表する**弦楽器**のひとつです。

横に長い胴に13本の弦を張り、指につけた爪（つめ）ではじいて音を出します。やさしく澄んだ音色が特徴です。



箏が聴こえる場面

お正月のテレビ・お店のBGM

結婚式

お茶会

音楽の授業

コンサートホール

やさしい音色から、お正月や特別な場面でよく使われています。

ポイント

- 箏は、13本の弦を持つ、日本の代表的な弦楽器です。
- 奈良時代ごろに大陸から伝わり、日本で独自に発展しました。
- 現在も、伝統音楽だけでなく、新しい音楽にも使われています。

やってみよう

1. 箏の音を聴いたことがあれば、どんな場面だったか書こう。

2. 箏という漢字を、指でなぞって書いてみよう。

ワンポイント 「箏」は「こと」と読みます。次のページで、似た字の「琴」とのちがいも見ていきましょう。

書いて覚えよう

箏と琴のちがい

「箏」と「琴」は、もとはちがう楽器です。

箏（こと）

今の「こと」の主流

13本の弦

柱（じ）で音を変える

弾き方

つまみではじく

琴（きん）

もう一つの古い楽器

柱を使わない

指で弦を押さえて音を変える

今はあまり使われない

古い時代の楽器

ポイント

- 「箏」と「琴」は、どちらも「こと」と読みますが、もとはちがう楽器です。
- 現在「こと」として親しまれているのは、多くの場合「箏」です。
- 日常では「琴」の字が使われることもあり、少し複雑な関係です。

やってみよう

- 「箏」と「琴」、2つの漢字を見くらべて、ちがいを見つけよう。

書いて覚えよう

箏の各部の名称

箏の各部には、竜にちなんだ名前がついています。

箏の各部の名前

竜頭（りゅうず）＝頭の部分

竜尾（りゅうび）＝尾の部分

柱（じ）＝弦を支える台

糸（いと）＝弦のこと

竜のからだに見立てて名前がつけられています。

ポイント

- 箏は、竜（りゅう）のからだに見立てて、各部に名前がつけられています。
- 頭の部分を竜頭、尾の部分を竜尾とよびます。
- この呼び方からも、箏が大切にされてきた楽器だとわかります。

やってみよう

1. 竜頭と竜尾、どちらが演奏する人に近い側だと思いますか。予想して書こう。

書いて覚えよう

13本の弦

箏には、13本の弦が張られています。

弦（げん）

いと

音を出すために張られた糸

13本

じゅうさんぼん

現在の箏の標準的な弦の数

ポイント

- 現在の箏には、13本の弦が張られているのが標準です。
- すべて同じ太さではなく、低い音の弦ほど太くなっています。
- 弦の数が多いほど、より広い音の範囲を出すことができます。

やってみよう

1. ギターなど他の弦楽器の弦の数を調べて、箏とくらべてみよう。

ワンポイント 箏には17本や20本など、弦の数が多いタイプもありますが、13本が最も広く親しまれています。

書いて覚えよう

柱は、弦を支え、音の高さを決める台です。

爪のつけ方・すわり方と構え

弾く前の準備を知ろう。

爪（つめ）

つめ

指先につけて弦をはじく道具

構え

かまえ

楽器に向かう姿勢

ポイント

- 爪は、右手の親指・人さし指・中指の3本につけるのが基本です。
- 箏は、竜頭を自分の右側に置いて構えるのが基本の向きです。
- 背すじをのばし、楽器との距離を適度にとってすわります。

やってみよう

1. 正しい姿勢で楽器に向かうとき、体はどんな感じになると思いますか。想像して書こう。

書いて覚えよう

13本の弦には、それぞれ名前があります。

13本の弦には、それぞれ名前があります。

弦の名称

一・二・三・四・五

六·七·八·九·十

斗 (と) ・ 為 (い) ・ 巾 (きん)

11本目からは、数字ではなく特別な名前によべれます。

ポイント

- 箏の13本の弦には、それぞれ名前がついています。
- 1本目から10本目までは「一・二・三...十」と数字でよびます。
- 11本目からは「斗（と）」「為（い）」「巾（きん）」という名前を使います。

やってみよう

1. 数字だけでなく、特別な名前がついている理由を考えて書こう。

書いて覚えよう

調弦（平調子）

弾く前に、弦の音の高さを合わせます。

調弦

ちょうげん

弦の音の高さを合わせる

平調子

ひらぢょうし

箏でよく使われる伝統的な調弦の型

ポイント

- 演奏の前に、柱の位置を調整して、弦の音の高さを合わせます。
- 「平調子」は、箏の伝統的な曲で広く使われる調弦の型です。
- 調弦がずれていると、正しいメロディが弾けません。

やってみよう

1. 歌を歌う前に音を合わせる「音合わせ」を、他の場面で見たことがあれば書こう。

書いて覚えよう

- 右手の3本の指（親指・人さし指・中指）で、手前から奥へ弦をはじくのが基本です。
- はじいたあと、次の弦へなめらかに指を移すことを意識します。
- 力を入れすぎず、弦の重みを感じるように弾くと良い音が出ます。

1. 机の上に指を置いて、右手の3本指で順番にトントンとたたいてみよう。

ワンポイント 初めは1本の弦だけを、同じリズムで何度もはじく練習から始めると上達しやすいです。

11

押し手・引き色

左手で、音に表情をつけてみよう。

押し手

おしで

左手で弦を押して音を高くする技法

引き色

ひきいろ

はじいた後に弦を引いて音を下げる技法

ポイント

- 押し手・引き色は、どちらも左手を使って音に表情をつける技法です。
- 押し手は、柱の左側の弦を押さえて音を少し高くなります。
- 引き色は、はじいた弦をそっと引いて、音をなめらかに下げます。

やってみよう

1. 音を「上げる」技法と「下げる」技法、それぞれの名前を書いてみよう。

書いて覚えよう

かき爪・わり爪

はなやかな響きを生む技法を知ろう。

かき爪

かきづめ

複数の弦を一気にはじく技法

わり爪

わりづめ

2本の指で交互に弾く技法

ポイント

- かき爪は、いくつかの弦を一気にはじいて、はなやかな響きを出す技法です。
- わり爪は、親指と他の指を交互に使って、リズムよく弾く技法です。
- こうした技法を組み合わせることで、曲に変化がつきます。

やってみよう

1. かき爪の音は、どんな場面で使われると効果的だと思いますか。

書いて覚えよう

箏の楽譜は、数字で表されます。

箏の楽譜は、数字で表されます。

A musical staff showing the first four notes of the piece 'Für Elise'. The notes are: a quarter note G4, a quarter note A4, a quarter note B4, and a half note C5. The notes are written in purple ink.

15

箏曲の名曲

昔から演奏され続ける名曲を知ろう。

六段の調

江戸時代の八橋検校（やつはしけんぎょう）による箏の代表曲

春の海

宮城道雄が作曲した、箏と尺八のための名曲。お正月によく流れる

みだれ

段ごとに拍の数が変わる、古くからの
箏曲

ポイント

- 箏には、江戸時代から演奏され続けている名曲がいくつもあります。
- 「春の海」は、箏と尺八が一緒に演奏する曲として広く知られています。

やってみよう

1. 上の曲の中で、聴いてみたいと思ったのはどれですか。

書いて覚えよう

箏の音色の魅力

澄んだ音色と、幅広い表現力があります。

ポイント

- 箏の音は、やわらかく、澄んだ響きが特徴です。
- 弱くはじけば静かに、強くはじけば力強く、幅広い表現ができます。
- 1本の弦の余韻（音の響きの残り方）も、箏の魅力のひとつです。

やってみよう

1. 箏の音色を、他の何かにたとえたとしたら？（例：水のしずくのような音）

ワンポイント 音が鳴ったあとの静けさに耳をすませると、箏ならではの余韻を感じられます。

書いて覚えよう

箏の手入れ

大切に使うために、手入れを知ろう。

ポイント

- 箏は、湿度や温度の変化に弱いため、直射日光や湿気をさけて保管します。
- 使ったあとは、やわらかい布で軽くふいて、汗や汚れを取ります。
- 柱の位置がずれていないか、演奏の前に確認します。

やってみよう

1. 楽器を大切に使うために、自分だったらどんな工夫をしますか。

書いて覚えよう

箏で1曲

もし箏を弾くなら、をイメージしてみよう。

弾いてみたい曲

理由

練習したい技法

Emma の例

弾いてみたい曲 さくらさくら／理由 やさしい音色が好きだから／練習したい技法 押し手

ポイント

- ここまで学んだことをもとに、もし箏を弾くなら、という想像をふくらませてみましょう。

書いて覚えよう

聴いてくらべよう

2つの曲を聴きくらべると、ちがいがよくわかります。

くらべるところ	曲A	曲B
速さ	速い・ふつう・ゆっくり	速い・ふつう・ゆっくり
音の高さ	高め・ふつう・低め	高め・ふつう・低め
感じ	_____	_____

ポイント

- 2つの箏の曲を聴きくらべると、表現のちがいがよくわかります。
- 同じ楽器でも、曲によって速さや雰囲気が大きく変わります。

やってみよう

1. 「六段の調」と「春の海」など、2曲を聴きくらべて表を完成させよう。

書いて覚えよう

まねっこ遊びで、指の動きに親しもう。

- ## ポイント

- 書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきは、上達のサインです。

つまずき

よくあること

弦の名前が覚えにくい

一〜巾まで13個ある

爪の扱いが難しい

慣れるまで力加減がむずかしい

楽譜が読みにくい

数字の楽譜に慣れていない

コツ

こうしてみよう

歌のように口で唱える

一・二・三...と声に出す

ゆっくり少しずつ

一度にすべてやろうとしない

繰り返し目にする

楽譜を何度も見て慣れる

ポイント

- 最初からうまくいなくて当たり前です。少しずつ慣れていきましょう。

やってみよう

1. あなたがいちばんむずかしそうに感じるのはどれですか。 _____

2. 上のコツから1つえらんで試してみよう。

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

箏の部分

☐ 竜頭

箏の頭の部分

☐ 竜尾

箏の尾の部分

☐ 柱（じ）

弦を支える台

演奏の言葉

☐ 爪

弦をはじく道具

☐ 調弦

音の高さを合わせること

☐ 平調子

代表的な調弦の型

技法の言葉

☐ 押し手

音を高くする技法

☐ 引き色

音をなめらかに下げる技法

☐ かき爪

複数の弦を一気にはじく技法

曲の言葉

☐ 六段の調

箏の代表曲

☐ 春の海

箏と尺八の名曲

☐ さくらさくら

初心者がよく弾く曲

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。

書いて覚えよう

箏の名曲を1曲探して聴く

箏の写真を見て各部の名前を確認する

弦の名前を一～巾まで声に出す

つめをつけたつもりで指を動かす

気になる箏曲を1つ調べる

箏ノートに気づいたことを書く

- 1回5分でも、毎日続けることがいちばんの力になります。

発表してみよう・感想を書こう

気になった技法や曲を、人に伝えてみよう。

気になった技法・
曲

音色の感じ

練習してみたいこ
と

伝えたい人

Ken の例

気になった曲 六段の調／音色の感じ 澄んでいて落ち着く／練習してみたいこと 押し手／伝えたい人 音楽の先生

感想を3文で書こう

① 箏の音は、～な感じがしました。② とくに、～のところが印象に残りました。③ それは、～からです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

箏の世界は、ここからどんどん広がります。

もっと知りたい人へ

図書館で

箏曲の本や楽譜を探す

演奏会へ

箏の演奏会に行く

動画で

演奏の指づかいを見る

次のステップ

三味線

もう一つの代表的な弦楽器

尺八・篠笛

箏と合わせる管楽器

雅樂

古くからの合奏音楽

ポイント

- この教材の次は、箏と並ぶ代表的な和楽器、三味線について学んでいきます。

書いて覚えよう

箏チャレンジ

教室の外でも、箏の音にはすぐ出会えます。

見つけよう

箏の音が流れている場所や映像を探す

聴こう

「六段の調」か「春の海」を1曲聴く

言おう

弦の名前を一〜巾まで声に出して言う

こたえ

L26 柱（じ）→オ 爪→ア 押し手→イ 平調子→ウ 六段の調→エ
2. 13本 / 尺八

L33 （例）13本の弦を、爪をつけた指ではじいて演奏する日本の
弦楽器。

書いて覚えよう

箏（Season 7 | No.63）

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。